



平成25年春第35号



静岡てんかん・神経医療センター小児てんかん学セミナー― 1
第66回国立病院総合医学会に参加して―――― 2
当院における海外からの患者の受入れ3
~問い合わせや手配での苦労等~
重症心身障害児(者)の姿勢保持について―――― 4
「一次救命処置」研修を行って―――――― 4
第31回てんかん専門職セミナー報告 5
ドラベ症候群治療薬に「ディアコミット®」が発売――― 5
平成24年度 成人式———— 6
国立病院総合医学会でベストポスター賞を頂きました― 6
てんかん外来再診の診療体制 / 医療連携室 7
はじめて当院を受診される方へ ―――― 8
当陰へのアクセス /イベント情報 /木 ――――― 8

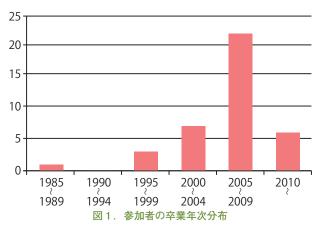
静岡でんかん・神経医療センター 小児でんかん学セミナー

静岡でんかん・神経医療センターでんかん学セミナーは歴史あるセミナーで、国内各地から参加があります。2004年の冬から参加希望者の増加に対応するため、小児担当医師向けセミナーと成人担当医師向けセミナーを冬と夏に分離開催するようになりました。

今回は、2013年1月25日(金)~26日(土)に行った若手小児科医師向けの臨床てんかん学の研修セミナーを、「あかり」の読者の皆さんにお伝えします。

セミナー参加者を、メールやインターネットホームページで11月に募集開始、12月初めには定員に達し、キャンセル待ち多数となりました。院外から

の参加者は42人(exposure course 2名、中国留学生1名を含む)、院内10名でした。卒業10年以内の若手医師が、参加者の多数を占めていました(図1)。



所属施設は、近隣の県を主体に茨城県から長崎県まで幅広く、全国からお集まりいただきました。参加の動機としては、てんかんを理解したい、脳波を読めるようになりたいといった自発的な方と、上司に勧められてといった方がおられました。

講義は、診断治療アウトラインの概説後、ビデオ脳波を多用した発作症状の解説が行われ、普段発作を見る機会が少ない先生方には、新鮮であったようです。今後の問診に役立つことを願っています(表1)(図2)。

1日目の講義は順調に18:00で終了、19:00からは30名での懇親会をホテルセンチュリー静岡で開催、会場では聞けなかった質問や、てんかん研究の面白さ、脳波検査技師さんの研修など、テーブルごとに話に花が咲き、21:00にお開きとなりました。

2日目は治療主体の講義でした。参加者からは もっと聞きたい講義に挙げていただきましたが、時 間が取れず申し訳ありません。午後には参加者の症



図2. 部分発作の講義を聞く受講生

表 1. 講義内容

表 1. 講義区	谷			
	時間	テーマ	講	師
1月25日(金)	10:30	開会挨拶	井上	有史
	10:40-11:00	てんかんの診断から治療の アウトライン	高橋	幸利
	11:00-12:00	部分てんかんの発作症状 (脳波)	池田	浩子
	12:00-13:00	昼食		
	13:00-14:00	全般でんかんの発作症状と 脳波	重松	秀夫
	14:00-15:00	小児のてんかん症候群	大谷	英之
	15:00-15:40	病院見学 (1 ~ 4 班) coffee break		
	15:40-16:40	小児てんかんの画像診断	松田	一己
	16:40-17:20	発作時脳波の読み方・デジ タル脳波	高山留美子	
	17:20-18:00	てんかんリハビリテーション と療育	久保田英幹	
	19:00	懇親会 (ホテルセンチュリー静岡)		
26日(土)	9:00-10:00	てんかん外科治療	馬場	好一
	10:00-10:20	coffee break		
	10:20-11:20	小児てんかんの薬物治療	今井	克美
	11:20-11:40	ケトン食療法	今井	克美
	11:40-12:00	Rasmussen症候群とてんかん 自己免疫病態	高橋	幸利
	終わり次第	閉会挨拶	井上	有史
		症例検討	司会	高橋
	13:00-14:30	「熱性痙攣から無熱性痙攣へ 移行した一例」	名鉄 鈴村	

の理解が深まったものと思います。

2日間の研修を通じて、全国の若手小児科医に臨床 てんかん学の診断法・治療法を啓蒙でき、今後の当院 との結びつきを強めていただくきっかけを作れ、てんかん 診療ネットワーク構築にも貢献できたものと考えています。

(セミナー実行委員長 高橋 幸利)

第66回国立病院総合医学会に参加して

A2病棟 看護師 渡邉 亜耶 ⊷



平成24年11 月16日、17日 に神戸にて第66 回国立病院総合 医学会が開催されました。私た

ちは「筋萎縮性側索硬化症患者のナースコール実態調 査及びアプローチ方法とその効果」という演題で、ナース コールの頻度や内容を分析し、患者対応の見直しと実 践した結果をポスター発表し、嬉しいことにベストポスター 賞を頂きました。発表は聴講者が多くてとても緊張しましたが、私たちが取り組んだ研究に沢山の人が興味をもってくれたことに嬉しさを感じました。日帰りで慌ただしい中、

初めての学会参加でしたが、他施設と討議したり様々な講演を聴講したり美味しいご飯を食べたりと充実した1日を過ごすことができました。今後もより良い看護を提供していけるよう日々努力したいと思います。



当院における海外からの患者の受入れ~問い合わせや手配での苦労等~

政策医療として国際協力を担う当院では、日本人 と同じように外国の方も当院で診療希望する患者さ んを受け入れています。

主な国は、中国、モンゴルからです。2012年の 夏は、中国から集中して8-9名の小児のてんかん 患者さんが口コミ・ブログ情報を得て当院での診療 を希望されました。病院を高く評価していただいて ありがたいことです。

しかし、初診前相談・ホットライン受付窓口の医療福祉相談室では、直接海外からの電話や日本国内にいる複数の自国の友人からの問い合わせで混乱を来たしたことがありました。

一番の問題は、ことばです。ご家族は日本語が話せず、仲介してくださる方が、日本語は話せても患者さんの病状をよくご存知ない、発作の状況を質問しても医療用語がうまく通じない、病院側の受診の概要説明がスムースに理解してもらえない等、問い合わせの段階でことばの壁にぶつかり四苦八苦しています。

受入れ当初は、中国の地理的な場所の確認や空港から当院までの交通案内、日本の病院を受診するためのビザ取得についての確認から始まりました。その中で国の指定する身元保証機関の存在を知り、どのような役割を果たしてくれるのか、その手続き方法や委託手数料はどうか、日常会話・医療通訳はどのようにすればよいか、通訳費用はどのくらいかかるかと多くの情報を得る必要がありました。試行錯誤の過程の中で、外務省・経済産業省の指定する数箇所の身元保証機関より来院していただき説明を伺いました。

また、患者さんと出来るだけ正確な情報交換がスムースに行くように、外国人向けの受診ご案内を作成し中国語に翻訳していただき、メールで受診希望内容や病状の連絡を日本語で頂くようにお願いしています。しかし、適切な情報を得るには容易ではありません。

次に得られた情報 から当院で受入れが 可能かどうかの判断 です。小児・大人の 担当医と連絡を取り 合い、病状的に受入



れが可能か判断してもらいます。

問い合わせをしていただいた時点で、既に短期滞在ビザの取得を済まされていたり、直ぐにでも受け入れてもらえると思い入院期日を指定されたりと日程調整に戸惑うことがあります。

外国の人を受け入れるためには、他に、ビザ(短期滞在ビザ・医療ビザ)の問題、身元保証の問題、診療の納得の問題、通訳の問題、日本でのマナーや規則の遵守等の理解と多くの課題を解決していただかねばなりません。

日本人であれば、ほとんどが電話での説明で容易 に理解納得していただける内容です。ことばが通じ ないことで多くの困難と時間を要します。基本的に 通訳に関する問題は患者さまサイドで準備していた だけるようにお願いしていますが、治療費以外に多 額の費用の問題が不随してまいります。

納得した医療を受けていただくには、日常のコミュニケーションがスムースにいくことが基本となります。そのために通訳ボランテイアを探したり、病棟現場では通訳機器の使用を試みたりと皆で知恵を絞りつつ、言葉の壁に取り組んでいます。

患者さまはインターネット等で評判を耳にし、最 善の医療を受けたいと期待を大きく膨らませて、金 銭的にも多額のお金を工面して受診を希望されてい ます。

日本の患者さま同様、静岡てんかん神経医療センターに来て診療を受けてよかったと満足して帰っていただけるように関係職員で検討を重ねながら受入れに取り組んでいます。

(医療福祉相談室 芹田 里美)



重症心身障害児(者)の姿勢保持について

理学療法士 望月 珠江

重い運動障害のある方たちは、その原因となる筋の問題や二次的に生じた骨の変形や関節の拘縮が、姿勢保持を困難にし、そのことがご自身の姿勢や運動発達を阻害しています。そしてそれが、ご家族や職員による介助を徐々に困難にしてしまいます。

そこで今回は重い障害のある方の姿勢保持について紹介します。姿勢保持は、変形・拘縮に配慮しつつ、ご本人の苦痛がなく、心地よい活動を支援することが大切です。また重い障害のある方は体力がないことが多いため、特に「休息姿勢」について工夫が必要です。休息姿勢とはリラックス出来る事が目的で、そのためには体を安定させることが重要です。ここでいうリラックスとは余分な力を入れずに姿勢を保てる状態のことを言います。これを基本にして今回は仰向けとうつ伏せ姿勢の特徴を含めたポイントを紹介します。

① 仰向け(図1)

この姿勢は支持面が広いため安定しやすい姿勢の ひとつです。頭はなるべく真ん中に確保し、肩は著し く上がっていないか、肩甲骨が後ろに引っ張られ胸が 過剰に広がっていないかをチェックします。また腹部に はゆとりがあるかを見ていきます。下肢を膝立て位にす ると腹部の筋肉は緩みます。

※側彎のある方は倒れた下肢を枕等で持ち上げておいてあげる必要があります(図2)。

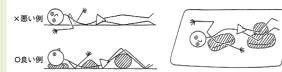


図1 仰向け姿勢の例 図2 側彎に対する姿勢保持の例

② うつ伏せ(図3)

この姿勢も支持面が広いため安定性が高いですが、動きにくいことも特徴としてあげられます。 息がしやすいように口や鼻がふさがらないように注意して頭部を上げるか、頭を左右どちらかに向けます。頭が動かしにくい姿勢のため、図のように肘立て位にしたり片側の胸の下に枕を入れて頭が床から離れやすくすることが必要です。

※必ず誰かが口・鼻の位置を確認出来る位置で実施してください。



図3うつ伏せ姿勢の例

※これらの姿勢はあくまでも一般的なポイントです。人それぞれ適した姿勢があると思いますので、お困りの方は主治医 までご相談ください。

「一次救命処置」研修を行って。。。

医療安全管理室 日吉 由紀子

医療安全研修の一環として、全職員を対象に一次救命処置研修を12月12日、18日、1月10日、16日の合計4回行いました。参加者は135名でした。今年度は元消防士を講師に迎え、意識のない人を発見した際の対応やAEDの使用方法を学びました。30分と短い時間だったので参加者全員が実技を体験することは出来ませんでしたが、元消防士の実体験を聞くことにより、よりイメージしやすかったようです。身近に救命が必要な場面に遭遇したら、今回の研修で得た知識を活用して頂きたいと思います。



看護師さんを募集しています!

①常勤職員:病棟勤務 夜勤有り

②非常勤職員(外来、通所事業、病棟)

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか?相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL • 054-245-5446

E-mail • kango-bu@szec.hosp.go.jp

第31回てんかん専門職セミナー報告

診療放射線技師長 大島治泰 🛶

三寒四温の季節の中 当日はすばらしい青空の下、第31回てんかん専門セミナーが、開催されました。

てんかんを持つ成人に関わる医療・介護・福祉・教育の各分野の看護師・介護福祉士・ 介護支援員・生活支援員・精神福祉士・児童指導員・職業指導員等の方々を対象として てんかんに関する知識、生活支援を行う際の留意点、指導機関と医療との連携について 理解を深め、また、専門職同士が情報を共有し、援助の在り方を考えるためのセミナーです。 セミナーの内容といたしましては、

- 1. 「日常生活で遭遇するてんかん発作の正しい理解」と題して 荒木 邦彦医師に
- 2. 「てんかんを持つ人の日常生活」と題して 田尻 浩てんかん看護 院内認定看護師に
- 3.「てんかん患者さんの高次脳機能障害」と題して 井場木 祐治 主任理学療法士に
- 4. 「成人てんかん 本人・家族・地域との連携」と題して 堀 友輔 ソーシャルワーカー 医療福祉相談室に

それぞれの立場から講義をして頂き、最後に施設見学を行いました。



当院の会場の関係で61名の申込の中、受付順に定員50名で締め切らせて頂きました。申込なさり受講できなかった方には、書面をお借りして申し訳ございませんでした。次回の応募をよろしくお願い致します。そんな中、受講者48名(欠席者2名)の皆様は、自分自身の課題を克服するため熱心に聴講されておられました。質疑応答も、職場内での経験や問題点等を踏まえ専門職ならでは、具体的で現実的な討議となりました。

セミナーのアンケートからも、「てんかんの病態・発作の対応の仕方等をしっかり理解できました。」「患者、家族と各職域の方との関わり方を知ることができました。」と言うご意見が多数ありました。また、「講義時間が短かった。」「もっと掘り下げた話が聞きたかった。」と積極的なご意見も多く頂きました。今後のセミナーの参考とさせて頂きます。

セミナーをお世話した一員といたしましては、当院の立場を改めて認識させる1日となりました。

ドラベ症候群治療薬に「ディアコミット®」が発売 薬剤科 後藤 一純

2012年11月にドラベ症候群治療薬として、ディアコミットドライシロップ分包250mg、同分包500mg、同カプセル250mgが発売されました。

ディアコミットは、標準薬のクロバザム(マイスタン) とバルプロ酸ナトリウム(デパケン等)と一緒に飲むこと で、けいれん発作の抑制効果を高めます。このお薬 は、ガンマアミノ酪酸(GABA: 脳神経の興奮をおさえ る抑制性神経伝達物質)の脳内濃度を高め、その働 きを強めることで脳神経の興奮をしずめます。さらに二 次的効果として、併用抗てんかん薬の血中濃度を上 昇させ、その抗けいれん作用を増強します。

空腹時に飲むと、吸収が低下し、作用が減弱する おそれがあるので、食事中または食直後に飲むお薬で す。また、飲み忘れたときは、気がついた時に、何か 食べてから飲む必要があります。

ドラベ症候群とは、発症の頻度が4万人に1人とい

われ、1歳未満(4ヶ月から10ヶ月以内に多い)の乳児期に発症する重症の小児でんかんの1つです。遺伝子の異常が原因と考えられており、発熱や入浴をきっかけに全身やからだの片側のけいれん発作で発症します。また、発作が続いて止まらない「てんかん重積状態」を起こし、経過にともなって知能の発達の遅れが明らかになることがおおく、歩行時の失調(ふらつき)を伴うこともあります。

ディアコミットはオーファンドラッグ(Orphan Drug: 希少疾病用医薬品)です。オーファンドラッグとは、医療上の必要性は高いが、薬を必要とする患者数が少ない病気に使う医薬品のことです。法的には(薬事法では)対象患者が5万人以下の、稀な疾患に用いる医薬品のことを言います。処方された際に、調剤薬局がお薬を準備するのに時間がかかる場合がありますので、気軽に薬剤科へ声をかけてください。

With which and 人 人 人 大 かっぱい which and a de 人 人 大 おかてとうございます

平成24年度 成人式

保育士 下村 夏子

重症心身障がい児 ・者病棟(療養介護・ 医療型障害児入所)

では、年間を通して様々な行事を開催しています。平成25年1月16日、管理棟3階の講堂にて「成人式」を行いました。主役の新成人3名は式典に相応しい衣装を身に纏い、花リボンをつけてビシッと格好良く決めていらっしゃいました。会場では、来賓の方々、患者様、職員が新成人の登場を楽しみに待ち構えています。

さぁ、開式の時間です。盛大な拍手に迎えられ、 新成人が御家族と一緒に入場されます。キリッとした 雰囲気の中開会の辞が述べられ、新成人紹介へと移 ります。ここではプロジェクターでスライド写真を上映し、 新成人一人ひとりの20年間を振り返りました。みんな から「かわいいね。」と愛でられた幼少期、毎日がドキド キワクワクの連続だった小学校時代、色々な経験を 重ねた中学校・高等部時代、そして現在…。数々の 思い出と共に「あのころ」がよみがえってきました。

続いては、病院長式辞です。当センターの院長、井 上先生より成人を迎えられたことをお祝いされる温かい お言葉をいただきました。そして、来賓祝辞。静岡特別 支援学校副校長とわかくさ保護者会顧問よりお言葉を いただきました。祝福と共に贈られた、人生の節目を迎 え成人として新たにスタートラインに立つ3名へのメッ セージ、同じ保護者という立場から御家族にも向けられたメッセージは心に残るものでした。その後、杉浦事務部長より記念品が、古屋看護部長より花束が贈呈されました。さらに、病棟から手作りの記念品贈呈も!各病棟を代表する患者様から新成人へと手渡されました。

ここでお祝いの歌「翼をください」をうたい、最後に「新成人の言葉」。新成人、御家族より一言いただきました。前に出て注目を浴びた新成人、ちょぴり緊張されている方、堂々と構えている方、元気いっぱいお話しされる方とその人らしさが垣間見える瞬間でした。御家族からも、成人を迎えられたことへの喜び、周囲の方々への感謝の気持ちが述べられました。幸せな気持ちが溢れて少しだけ滲んだ涙、皆さんのなんともいえない和やかな表情が印象的でした。また一つ、新成人と御家族との思い出が増えたことと思います。

閉式の辞が述べられ、「成人式」は終了です。リラックスムードで記念撮影を行った後、新成人は退場され

ました。大人への第一歩を 踏み出した新成人、これから も若さとガッツで元気に過ごし 素敵な笑顔を見せてくれるこ とでしょう!!ご参加・ご協力い ただきました皆様、ありがとう ございました。



国立病院総合医学会でベストポスター賞を頂きました C2病棟 看護師 松浦 由和



私は、今回初めて国立病院総合医学会に参加しました。そこで、 はじめて発表の機会を得、更にベストポスター賞を頂くことができま した。しかし、表彰の時は、ベストパフォーマンス賞として表彰を 受けました。私の発表が温かい雰囲気で場を和ませていたという理



由でした。発表の時は緊張のあまり、頭が真っ白になってしまいましたが、会場の皆様がとても 温かく聞いて下さったおかげで、後半は緊張がとれ思いを伝えることができました。

てんかん外来再診の診療体制

7	h	か	h	科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室	中 村	山崎	臼 井桂	山崎	臼 井直
第2診察室	久保田 _英			久保田 _英	
第3診察室	今 井		井 上		松 田
第4診察室		鳥 取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	池田浩	池田浩	寺 田	寺 田
第6診察室	芳 村			芳 村	馬場好
第7診察室		小 出			那須
第8診察室		西田	高 橋		
第9診察室	重 松			大 谷	大 谷

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室	杉浦	小尾			小尾
第11診察室			溝口		荒木/馬場国

注1 第1、3週のみ

特殊外来

転倒予防外来	随時	小尾			
物忘れ外来	随時	小尾			
遺伝相談	適宜	高橋、小尾			
禁煙外来	随時	池田仁			

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に 行なうために、医療連携室(予約センター)を 設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL■054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 \sim 12:30 ● 13:30 \sim 17:00

E-mail ■ renkei@szec.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、 終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの 検査が可能です。共同利用も可能です。 上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報 誌編集委員会

編集人■

 溝口
 功一
 寺田
 清人
 高嶋
 春美

 舛田
 俊一
 後藤
 一純
 仲野 久美子

 児玉
 和久
 中神
 基充
 堀田
 真子

 山本
 恵
 川口
 梨沙

発 行■平成25年3月31日

国立病院機構

静岡でんかん・神経医療センター 〒420-8688 静岡市葵区漆山886

T E L ■ 054-245-5446

F A X ■ 054-247-9781

U R L ■ http://www.shizuokamind.org

E-mail

shizuoka@szec.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

当院へのアクセス

access

● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡 鉄道バスにて、こども病院線「67こども病院・ バスを 神経医療センター」行に乗車、終点の"静岡神経医療 ご利用の場合 センター"で下車。全所要時間は約30分。 片道料金は大人350円、小児180円。 タクシーを JR静岡駅前(北口)より乗車。 ご利用の場合 所要時間は約20分。料金は2,200円程度。 ●東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡 方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター 東京 通りを北へ数分。 所要約20分。 方面から ■御殿場JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡 ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。 ●東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面 に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを 名古屋 北へ数分。 所要約30分。 方面から ●三ヶ日JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,625円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしま すので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。



イベント情報

●てんかん学研修セミナー~成人の臨床てんかん学~

ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。

2013年9月6日(金)~9月7日(土)

於 ◆ 静岡てんかん・神経医療センター 3階講堂

詳しくはホームページをご覧ください

本

●新てんかんテキスト~てんかんと向き合うための本(南江堂、2012年)

当院の59名のスタッフが、医学から生活にいたるまで、乳児から高齢者に至るまで、てんかんをめぐる種々の側面をとりあげ、わかりやすく解説しています。

●小児てんかん診療マニュアル【診断と治療社、2012年】

てんかん診療の基礎知識、鑑別診断と治療のポイント、患者・家族への説明に至るまで、診療場面で実践的 に役立ちます。改訂第2版増補版。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積した センターが外来棟1階にあります。

- どうぞご利用ください。次の活動を行っています。
- てんかんに関するさまざまな情報を集積した <a>↑ てんかんに関する書籍·雑誌·ビデオなどの閲覧·貸し出し(自己学習)
 - ②ホームページによる情報提供 http://epilepsy-info.jp/
 - てんかん協会との連携 医療などの相談(予定)